

東北信の台風水害の教訓を活かせ！



日本共産党
おざわ しょういち
小澤 彰一

その他の質問事項

- ▼ 市制施行60周年記念行事について
- ▼ 市立自然博物館について

◆防災について

問 本市は職員を台風被災地へ派遣した。職員の実験や報道から、本市の防災への教訓をどのようにとらえているか。

答 本市は須坂市・長野市への支援を行った。避難所に関しては、段ボールベッドは居住性があって有効だが、プライバシーへの配慮が課題、真夏・真冬なら温度管理も課題と考える。公的支援開始までの3日間、各世帯での食料備蓄などを訴える必要がある。避難所運営については、マニュアルの実効性を担保するためにも開設・運営の訓練を日常的に行っていくたい。

問 津波によって多くの犠牲者を出した石巻市立大川小の防災体制の不備に関し、市の責任が確定した。市内の保育園・小中学校の危機管理マニュアルについて確認を行っているか。

答 具体的な避難場所・経路を盛り込んでい

とを確認している。保護者への引き渡しもマニュアルに従って訓練を行い、意識啓発と連携強化に努めている。災害時の連絡も複数の手段を用いて伝達や指示を行う状況になっている。

◆桜沢トンネルについて

問 新道と現道との接続、市道移管後の道路改良・保全についてどのように考えているか。

答 桜沢・片平両地点とともに直角に近い形で接続する。移管後の大規模な工事が必要ないよう国と協議し、国が工事を実施するよう求めていく。
要望 今後、歩道の安全確保を交渉してほしい。



12月15日 19号桜沢トンネル貫通式

地域包括ケアの現在と今後の課題



市民派連合
しのはら としひろ
篠原 敏宏

その他の質問事項

- ▼ 在宅と日常生活支援について
- ▼ 河川内流木対策、堤防・護岸の安全検証

◆医療と介護の連携、成果と課題は

問 地域包括ケアの中核を担う医療介護連携推進協議会の、現時点での成果と課題は何か。

答 これまで同協議会では多職種による「いきいき連携手帳作成」と「口腔ケア等」の委員会を立ち上げ、グループワークで在宅介護に繋がる成果を重ねてきた。今後は多職種間のより深い連携体制づくりが課題と考える。

問 先日の同協議会グループワークに市長も自ら出席したと聞く。出席しての率直な感想は。

答 何人もの医師があのように参加して発言したことに参加し発言していたことに驚き、感動した。同時に高齢者の買い物支援や運転免許返納後の課題について、理想と現実のギャップを埋める努力が必要と切に感じた次第である。



カメラを設置し水位を自動送信する琵琶橋

◆奈良井ダム の緊急放流と河川防災対策

問 19号台風の際、奈良井ダムの緊急放流の際、サイレンが鳴った。そのときのダムの状況は。

答 長野県によると、80年に1回の大規模な大雨災害の計画放流量に対し今回は10分の1程度であった。

問 河川災害時の水位感知機能と住民への周知態勢は。

答 奈良井川の琵琶橋及び長瀬にある県の水位計で危険水位に達したときは、防災無線を通じ住民に周知する。県では今年度中に、田川、小曾部川、矢沢川にも水位計を設置する予定。